新たな風を吹かせ反撃へ

2022年闘春

国労ちば
国鉄労働組合
千葉地方本部
発責 加藤 晃一
編集 高橋 弘幸
【電話】
JR 2930 FAX 2934
NTT 043(238)5983
2022年新春号

加藤委員長

組合員の皆さま、ご家族の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

昨年10月の第75回定期地方大会において、新たに執行委員長に就任しました加藤です。どうぞ宜しくお願いいたします。

昨年は労働運動はもとより、家族との生活も、仕事も、コロナウイルス感染拡大防止に明け暮れましたが、創意工夫しながら奮闘した1年でもありました。

年頭にあたり、千葉地本が取り組むべき今年の課題について、お伝えします。

1点目の課題は、言うまでもなく組織強化・拡大です。

現在JR職場における労組加入率は3割弱。相反して会社主導で発足した「社友会」という親睦団体の加入率は7割超と言われています。会社の発展に寄与する社友会では、労働者の声に依拠した改善は出来ず、職場には多くの不平や不満が渦巻いています。そうした声なき声を丁寧に摘み取りながら、労働組合の存在意義を明確にし、今年こそ組織拡大に転じなければなりません。また、職場の組合員の皆さんの意見を尊重し活発に分会活動ができるよう体制強化を図ります。

2点目は、労働条件の改善に向けた取り組みの強化です。

コロナ禍での大きな減収を理由に、様々な効率化施策が矢継ぎ早に実施されています。固定費である人件費の抑制もその一つですが、職場では痛みを伴うコスト削減と名を打って、あらゆるものの削減を強行しています。これまで「生命と権利」、そして安全に拘って運動を展開してきた国労にとって由々しき事態です。国労が歩んできた何事にもぶれない運動を、これまで以上に強化し職場・地域で闘いを繰り広げなければなりません。

3点目は地域住民の足を守る運動の更なる展開です。

昨年のダイヤ改正で拡大導入されたワンマン運転の問題について、委員長就任以降、地元の利用者や地方議会の議員の方々とも意見交換をさせていただきましたが、乗換えの不便さや混雑緩和、ワンマン運転故の「安全対策」に対して危惧する声が多く寄せられました。利用者の声に依拠した要求を集約し、労働組合らしく大衆行動の展開と団体交渉などを通し、利用者の生の声を声高に訴え、その改善を求めていかなければなりません。

昨年の大会で、2人の若い仲間を執行部に迎えることができました。この2人が、必ずや若い力で新しい風を吹かせてくれる事と私は大きな期待を膨らませています。そしてその勢いを活かしながら、新鮮な感覚を取り入れ、何としても今年こそは反撃に転じられるよう地本総体で奮闘しましょう。

私たちの運動に不要不急はありません。今年こそ、私たち労働者が本来の笑顔を取り戻すことができるよう、全力で頑張ります。今年は寅年、虎に因んで勇猛果敢に攻め続け、勢い良く形勢逆転といきましょう。

本年もよろしくお願いします

国鉄労働組合千葉地方本部

執行委員長　加藤晃一
執行副委員長　越川幸夫
書記長　北嶋利則
執行委員　嶋田福実
執行委員　高橋弘幸
執行委員　佐川正則
執行委員　北村智之
青年部長　飯田秀樹
特別執行委員　石橋康裕
特別執行委員　松田優一
特別執行委員　宮負寧
特別執行委員長　谷川勇一
特別執行委員　樫尾智
会計監査員　鈴木浩
会計監査員　古賀将也
書記　野村和美

国労千葉地方議員団

いすみ市議会議員　元吉栄一

拡大分会長会議
2022年1月15日(土)13時～
千葉県教育会館604号

2022年新春労働講座
2022年1月15日(土)15時～
千葉県教育会館604号

第182回拡大地方委員会
2022年2月26日(土)10時～
千葉県教育会館303号

明けましておめでとうございます。

新年を迎えても、組合員の皆様には、心から喜び合いたい気分ではないかと思います。振り返れば、昨年は定昇が半分に減らされ、一時金も減額となりました。追い打ちをかけるように柔軟な働き方として、職場は、合理化に次ぐ合理化となり、将来の不安は大きなものとなっています。▼昨年はオリンピックもあり、SDGs（エス・ディー・ジーズ）という言葉が、マスコミに多く登場しました。貧困をなくそう、不平等をなくそう、働きがいも経済成長も、などなど、目標は立派ですが、日本社会の実態とかけ離れた言葉にうんざりした気分になります。JR東日本会社も同様です。社員の働きがいの実現のためとした合理化施策が労働者を苦しめていますし、利用者の利便性向上を謳い文句にチケットレス化を進めるとしています。労働者や利用者の声に真摯に向き合わず、一方的に施策を実施することは会社の将来に決して良いものとはならず、破綻につながるでしょう。（幸）